

様式第1号（第5条関係）

会議概要

|            |   |
|------------|---|
| 会議の名称      | 令和3年度第2回久喜市総合教育会議   |
| 開催年月日      | 令和3年10月22日（金）   |
| 開始・終了時刻    | 午後2時00分から午後3時06分まで  |
| 開催場所       | 市長公室  |
| 議長氏名       | 梅田修一市長  |
| 出席委員（者）氏名  | 柿沼光夫教育長、諸橋美津子教育長職務代理者、山中大吾教育委員、小野田真弓教育委員  |
| 欠席委員（者）氏名  | なし  |
| 説明者の職氏名    | 指導主事兼教育部参事兼指導課長 川羽田 恵美<br>指導主事兼指導課主幹 川島 尚之  |
| 事務局職員職氏名   | 総務部長 中村 貴子<br>教育部長 野原 隆<br>総務部副部長 小澤 敦子<br>教育部副部長 吉澤 勉<br>総務部参事兼企画政策課長 関根 義寛<br>教育部参事兼教育総務課長 榊原 俊彦<br>企画政策課企画政策係長 石川 琢也<br>企画政策課企画政策係主事 吉田 弘美 |
| 会議次第       | 1 開会<br>2 市長あいさつ<br>3 教育長あいさつ<br>4 協議・調整事項<br>（1）学校教育におけるSDGsの取組みについて<br>（2）その他<br>5 閉会   |
| 配布資料       | 会議次第<br>資料1 久喜市立小・中学校におけるSDGs実現に向けた取組   |
| 会議の公開又は非公開 | 公開  |
| 傍聴人数       | 0人  |

審 議 会 等 会 議 録

| 発 言 者 ・ 会 議 の て ん 末 ・ 概 要 |   |
|---------------------------|---|
| 関根参事                      | <p>○令和3年度第2回久喜市総合教育会議<br/>1 開会</p> <p>皆様、こんにちは。<br/>定刻になりましたので、ただいまから令和3年度第2回久喜市総合教育会議を開催させていただきます。<br/>会議に先立ちまして、いくつかご了解いただきたいことがございます。まず、本会議につきましては、法律の規定により個人の秘密を保つ必要があるとき、会議の公正が害されるおそれがあると認めるとき、その他公益上必要があると認めるときを除き、公開することとしておりますことから、本会議でも、原則公開とします。<br/>また、本日の会議録作成のため、発言する際はマイクを通して発言をお願いしたいと存じます。<br/>本会議の公開、傍聴、会議録の作成及び公表、会議録作成のため録音につきましては、前回ご確認をさせていただいておりますので、前回と同様の取扱いをさせていただきます。皆様ご了承をお願いしたいと存じます。<br/>次に、前回に引き続き、今回の会議録についても、署名していただく原案をご確認いただくこととさせていただきます。署名する構成員につきまして、市長及び市長が指名する1名の構成員が署名するものとしたいと思います。市長から指名をお願いいたします。</p> |
| 梅田市長                      | <p>今回の会議録の署名は「諸橋委員」にお願いします。</p>   |
| 諸橋教育長職務代理者                | <p>はい。</p>  |
| 関根参事                      | <p>それでは、本日の会議録の署名は、梅田市長と諸橋委員をお願いしたいと存じます。</p> <p>2 市長あいさつ</p>   |
| 関根参事                      | <p>次第に基づきまして進めさせていただきます。<br/>初めに、梅田市長よりごあいさつをいただきたいと存じます</p>  |
| 梅田市長                      | <p>皆様、こんにちは。<br/>久喜市長の梅田修一でございます。<br/>本日は、令和3年度第2回久喜市総合教育会議を招集いたしましたところ、柿沼教育長並びに教育委員の皆様におかれましては、ご多忙のところご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。<br/>また、児童生徒の健康を守るため、新型コロナウイルス感染防止対策等について、教育長をはじめ、教育委員の皆様、各学校の先生方にご協力いただき誠にありがとうございます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。<br/>本日は令和3年度の第2回目の会議ということで、「学校教育における</p>   |

梅田市長

SDGsの取組み」について、協議・調整をお願いいたします。

さて、本市では、令和3年度を世界共通の開発目標であるSDGsの推進の起点と捉え、その視点を取り入れたまちづくりを市民の皆様と考えるためのワークショップやシンポジウムを企画・実施するなど、持続可能な地域社会の実現に向けた取組みを進めております。

市内小中学校につきましても、SDGsの達成につながるESD教育に熱心に取り組まれており、特に栗橋西小学校は昨年度「第11回日本ESD大賞」を受賞するなど、素晴らしい活躍をされております。

本日は、このような本市の学校教育の取組みに関しまして、皆様のお考えをお伺いし、意見交換をしてみたいと考えております。

ぜひ、皆様から忌憚のないご意見を賜り、本会議が有意義なものとなりますことをお願い申し上げ、簡単ではございますが、開会に際しましてのごあいさつとさせていただきます。

### 3 教育長あいさつ

関根参事

続きまして、柿沼教育長よりご挨拶をいただきたいと存じます。

柿沼教育長

皆様、こんにちは。

先般、梅田市長から、令和3年度第2回久喜市総合教育会議開催のご案内をいただき、本日は教育委員の皆様全員と出席をさせていただきました。

梅田市長におかれましては、日頃より教育行政への深いご理解とご支援をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症はまだまだ油断できない状況ではありますが、各学校や幼稚園では、感染対策をしっかりと取りながら、日々教育活動を着実に実施しております。第5波と言われる今年の夏、感染者が急増したことから夏休み明けの2学期は分散登校とし、オンライン授業を組み合わせたハイブリット型の授業を行うことができました。これも国のGIGAスクール構想に合わせ、梅田市長のご判断で教育のICT化・デジタル化を進めるための大型提示装置、電子黒板をはじめ様々な財政支援をいただいたおかげであり、感謝を申し上げます。

本日の協議・調整事項であります「学校教育におけるSDGsの実現に向けた取組」ではありますが、本市ではこれについても全国に先駆けて取組みを行いまして、先ほど市長のご挨拶にもありましたように栗橋西小学校が「第11回ESD大賞」の小学校賞を全国で唯一、受賞いたしました。しかし、まだまだ十分ではありませんので、委員の皆様からご意見をいただき、今後の活動に生かして参りたいと考えております。

市長には常に学校のこと、子どもたちのことを心にかけて市政を進めていただいておりますことに、改めて感謝を申し上げますとさせていただきます。

よろしく願い申し上げます。

関根参事

教育長、ありがとうございました。

それでは、会議に入る前に、本日の配布資料の確認をさせていただきますと存じます。

関根参事

事前に送付させていただいております、本日の次第と、資料1といたしましてスライド資料になりますが「久喜市立小・中学校におけるSDGs実現に向けた取組」の資料となります。

以上、次第を含めまして2点でございますが、お手元でございますでしょうか。

それでは次第4の協議・調整事項に入らせていただきます。

要綱の規定により、総合教育会議につきましては市長が招集し、その議長となると定めております。このことから、梅田市長に議長をお願いいたします。なお、議長として会議を進行していただきますが、併せて協議・調整事項にも加わっていただきたいと思っております。

それでは梅田市長、よろしく願いいたします。

#### 4 協議・調整事項（1）「学校教育におけるSDGsの取組みについて」

梅田市長

ここからしばらくの間、議長として、協議・調整を行ってまいりたいと思っております。

皆様におかれましては、協議・調整が円滑に進行いたしますよう、特段のご協力をお願いいたします。

それでは、協議・調整事項の「（1）学校教育におけるSDGsの取組み」について進めてまいります。

内容につきまして、担当課から説明をお願いします。

川羽田参事

それでは指導課より、「久喜市立小・中学校におけるSDGs実現に向けた取組」について、ご説明させていただきます。

久喜市では平成30年度より、栗橋西小学校をモデル校に指定しSDGsの実現を目指したESDの取組みを推進してまいりました。このあとSDGs実現を目指したESDの取組みのご報告とその取組みを踏まえた久喜市立小・中学校の今後の展望につきまして、GIGAスクール推進室長の川島からプレゼンテーションさせていただきますので、よろしく願いいたします。

川島指導課主幹

それでは、指導課から久喜市立小・中学校のSDGs実現に向けた取組みについて報告いたします。

令和2年12月、国は「SDGs実施指針」を踏まえた「SDGsアクションプラン2021」を発表しました。その中で、優先課題に関する主な取り組みとして、「教育のデジタル化・リモート化を進めること」と「持続可能な開発のための教育（ESD）を推進すること」を挙げております。

教育はSDGsのすべての目標に直結しています。SDGsすべての目標を成功に導く鍵として「教育」が重要であり、学校には、次世代の持続可能な社会の創り手を育成することが求められております。

現行の学習指導要領にも、このように記述されています。

「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協議しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる」ことができるようにすることが求められる。

これは、まさに、SDGs実現のためのESDそのものです。

学習指導要領に明記されているわけですから、当然、すべての小・中

川島指導課主  
幹

学校で実施しなければなりません。

久喜市においては「ALL KUKI 教育改革プロジェクト」に、この「持続可能な開発のための教育（ESD）」を位置づけ、重要な柱の一つとして市内小・中学校全校で推進しております。

それでは、これまで、久喜市立小・中学校がSDGs実現のためのESDにどのように取り組んできたのかを報告いたします。

はじめに先行研究校の取組みについて報告いたします。

久喜市教育委員会では、新しいことを取り入れる際に先行的に研究を進める学校を委嘱する、研究委嘱校制度を実施しております。SDGs実現のためのESDについても、この制度を生かし、先行的に研究する学校をつくり、そのモデルを全校に広げる方策をとってまいりました。

モデル校をお願いしたのは、栗橋西小学校です。平成30年度・令和元年度の2年間で、カリキュラム・マネジメントによるSDGs実現を目指したESDの取組みについて研究していただきました。

文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ESDを推進する学校をユネスコスクールとして認定しており、栗橋西小学校では、2年間の研究を通して、このユネスコスクールに加盟することを目指しました。

結果、現在、新型コロナウイルスの影響で遅れておりますが、すでに日本ユネスコ国内委員会の国内審査を通過しており、認定を待っている状態です。昨年度には、全国でただ1校の日本ESD大賞の小学校賞を受賞しました。審査員の視学官からも非常に高い評価をいただきました。

そんな栗橋西小学校の研究も、はじめは教員がSDGsについて知る、ところから始まりました。

日本で先導的にESDに取り組んできた江東区立八名川小学校の元校長先生で、当時日本ESD学会の副会長をされておりました手島利夫先生をお招きし、研修会を実施しました。

以降、手島先生には、栗橋西小学校の研究に継続して関わっていただきました。

次に、これまで学校が実施してきた教育活動が、SDGsとどう関連しているのかを調べていきました。

SDGs17の目標に関連のある教科、単元を「社会」「経済」「環境」「すべてに共通した目標の土台」の4つに分類し、整理していきました。

こちらは令和3年度の実施計画表です。

ESDの実践が積み重なる中で、もっとうしろしたほうがいいのか、ここでも取り扱ったほうがいいのか、といった様々な反省が生まれます。

そういった、これまで蓄積してきた授業実践を評価し、整理し直して現在この形になっております。

次に、ESDを実施の時期と併せて表現する「ESDカレンダー」を作成していきました。

こちらのカレンダーをご覧になっていただくと、真ん中の総合的な学習の時間の単元にいろいろな教科から線が引かれています。これは、ESDの中核として、総合的な学習の時間を中心とした教科横断型プロジェクト学習を設定していることを示しています。この教科横断型プロジェクト学習こそが、持続可能な社会の創り手として必要な資質能力を育む「要」になります。

2年間の研究の中で、様々な学習活動を行ってまいりました。具体的な取組みをいくつか紹介いたします。

まず、子どもたちとSDGsとの出会いの学習として、芝浦工業大学との連携を図り、大学生が企画・運営した「SDGsを学ぼう教室」を開催しました。

保護者にも子どもと一緒に参加していただき、「SDGsのことがわかった」「環境について考え直すきっかけとなった」等の声をいただきました。

こちらは、消防防災課と連携した「災害図上訓練DIG」を実施しているところです。

SDGs11「住み続けられるまちづくり」に位置づけた学習活動です。

子どもたちは、自分たちの住む地域にある危険について考え、災害から身を守るための行動について学ぶことができました。

SDGs、ESDを視点にした教科横断的な学習への取組みを推進すると、教育課程全体を見直すことになるので、結果として授業時数を整理することにつながります。

そういった時間を活用して、異学年縦割りグループを作り、様々な交流を行う「なかよしフェスタ」を実施いたしました。

目標の土台でもある、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」の取組として位置づけ、保護者・地域の方にも参加していただきました。

こちらは、ESDの中核となる「教科横断型プロジェクト学習」の成果を発表した「ペガサスマつり」の様子です。

自分たちの取組みを発信することで、自分たちの学びがさらに深まるとともに、新たな未来へと意欲をつなげることができました。

このようにして取り組んできた栗橋西小学校の研究の成果を見てまいりましょう。

まずは、地域・保護者へのアンケート調査の結果です。

- ・学校がSDGsを目指した取組みをしていることを知っている
- ・SDGsを理解している
- ・SDGsの取組に参加している
- ・学校がESDの取組みをしていることを知っている
- ・ESDを理解している

どの質問項目も大幅に向上しています。

ESDを核とした教育活動を推進し、しっかり情報発信していくことで、保護者のSDGs及びESDの認知度が大きく向上し、家庭での取組みに派生していくことがわかりました。

次に、埼玉県学力学習状況調査における、子どもたちの意識調査の結果です。

これらの質問項目は、学び方や意欲や姿勢といった非認知的な能力を調査するもので、青が平成30年度、紫が令和元年度の結果です。

持続可能な社会の創り手を育成する上で特に重要であるこの「非認知的な能力」がすべての項目で向上していることがわかります。

さらに、教科学力にも成果があることがわかりました。

数学的思考力、考え方に伸びがあったことと併せて、知識の習得においても数値の伸びが見られております。

ここで、栗橋西小学校の研究について振り返ります。

まず結論として、SDGs実現に向けたESDは、子どもたちの考え方や非認知的な能力に影響し、学力の向上にも寄与するということがわかりました。

そしてそのような成果を上げた要因として、1点目、教員の教育課程

の捉え方が変わったことが挙げられます。

これまでは、国語は国語、算数は算数、といったように教科ごとに考えることが多かったのですが、SDGsの視点で教育課程全体を関連付けて見るようになりました。これにより、無駄が省かれると同時に、相乗効果で各教科の学びがより充実するようになりました。

2点目、授業の学習課題が子どもにとって魅力的になったことが挙げられます。

SDGsに関連した学習課題が設定されることで、自分たちの学習が世界や社会と繋がっていることを実感しやすくなりました。これにより、学びが子どもたちにとって魅力的になり、主体的な学びを促進したと考えられます。

3点目、プロジェクト型の学習が展開され、主体的で協働的な学びが行われるようになったことが挙げられます。

SDGs実現のためのESDにおいては、「実社会とつながる教科の枠を飛び越えたプロジェクト型の学習」が効果的です。栗橋西小学校ではESDの中核としてそのようなプロジェクト型の学習を実施してきました。

SDGsに関連した魅力的な課題を友達とチームを組んでトライ&エラーを繰り返しながら解決を目指していく学習スタイル。子どもたちは自然と主体的になります。自然と協働的に学びます。結果として、考え方や学び方が高いレベルで身につくのです。

つまり、SDGs実現のためのESDに取り組むことで、授業の設計の仕方が、知識習得を目指したものから汎用的な資質能力の育成を目指した「社会と繋がる教科横断型プロジェクト学習」へと変わり、持続可能な社会の担い手として必要な資質能力を育成することができる、と考えられます。

栗橋西小学校の研究成果を踏まえ、市内全校でSDGs実現のためのESDを推進するために、5つのステップを踏んでいくことといたしました。

まず初めのステップは、教員自身がSDGsについて学び、その価値を認識することです。

次に、自校の教育課程とSDGsの関連を明らかにする、つまりこれまで自分たちが取り組んできたこの学習がSDGsと関連しているんだ、と捉えなおすということです。

ステップ3は、今度は次年度以降の教育計画に、はじめから意図してESDを位置づけていくことです。

ステップ4は、各教科等のESDの取組みを整理、体系化し、教育課程全体で効果的に育めるよう再編成することです。

ステップ5は、中核となるSDGs実現に向けたプロジェクト型学習を設定していくことです。

このステップ5まで進む頃には、全ての学校で特色を生かしたESDが展開されている、と考えています。

ステップ1、教員がSDGsについて理解する取組みです。

先ほど栗橋西小学校の取組みの中で紹介させていただきました、手島先生のご講演ですが、私自身も拝聴し、大変価値のある効果を期待できるものでもあると感じました。そこで、栗橋西小学校が手島先生に御指導いただく際には、当時の白石校長先生から、各学校に案内を出していただくようにいたしました。

また、栗橋西小学校の研究資料を、市内全学校で共有するネットワーク上のフォルダに格納し、市内の教員であれば、いつでも閲覧することができるようにいたしました。

もちろん、栗橋西小学校には、研究発表会を行っていただき、直接授業の様子等も見ることができるようになりました。

このようにして、教員のSDGs及びESDについての理解を深めていきました。

次にステップ2「自校の教育課程とSDGsの関連を明確にする」段階です。

これまで取り組んできた自校の教育課程を見直し、SDGsとどのように関連しているのか明確にしていきました。

これについては、次年度の教育計画を作成する際に、教育委員会から作成の手引きを各校に示してありまして、そこに明記することで、全校で確実に実行できるようにいたしました。

画面には、砂原小学校と菖蒲南中学校の例を映しておりますが、このような関連をまとめた表を久喜市は全ての学校で作成しています。

改めて、自校の教育課程を見直すと、SDGsに関連した教育活動をこんなにたくさん行っていたんだ、ということに気が付きます。

例えば、1年生から6年生へ「ありがとうの会」。2年生のおいも掘り。避難訓練も、外国語活動も、SDGsと結びつきます。

社会や理科でも、家庭科でも、技術科でも多くの学習がSDGsと結びつきます。

次にステップ3「教育課程に意図してESDを位置づける」段階です。

自分たちがこれまで行ってきた教育課程が、こんなにもSDGsと結びついているんだ、ということを経験した教員たちが認識できたなら、今度は次年度の教育課程を編成する際に「意図して」ESDを位置づけていきます。画面に写っておりますのは、令和2年度中に作成した、今年度の教育計画です。このように、各教科の指導計画の中に、この学習は、ESDとして取り組みますよ、ということを実行していききました。

次にステップ4、それぞれの教科の中に位置づけたESDが、それぞれどういう関係性にあるのかを体系化していきました。1年生のあの学習が、2年生のこの学習につながり、こういう考え方が身につくようにする、というようにより効果的に「持続可能な社会の創り手」に必要な資質能力を育めるように、組み立てていく活動です。こちらも次年度の教育計画を作成する際に、栗橋西小学校の研究を参考に、各校で研究していきました。

そしてステップ5、プロジェクト型学習の設定です。

プロジェクト型学習を設定していくにあたっては、「社会と繋がる」ことが大切です。

ですから、地域や企業との連携が効果的です。

過去に行った事例を2つ、紹介いたします。

まず、久喜小学校の事例です。これは「提灯祭りを美しく」という単元ですが、子どもたちは提灯祭りが大好きです。お囃子が聞こえてくるとなかなか授業に集中できなくなります。そんな大好きな提灯祭りですが、祭りの後にゴミが散らばっている様子も子どもたちは見えています。自分たちの大好きなお祭りを綺麗にすることはできないだろうか。子どもたちが考えたアイディアはゴミ箱を設置することです。ゴミ箱を設置していくために、そもそもゴミ箱にはどんな工夫があるのだろうか、という探求を行います。図工の時間にゴミ箱を作るための段ボールを加工する技能を獲得していきます。提灯祭りは夜まで続きますので、夜でも目立つゴミ箱にするために理科で学んだ豆電球の知識を活かします。そして作ったゴミ箱は、実際に提灯祭りの日に設置をしました。子どもた

川島指導課主  
幹

ちは「あっ僕たちが作ったゴミ箱にゴミを入れてくれている」なんて実際の様子を見えています。お祭りが終わった後、学校に戻ってきてゴミ箱の中を開いてみます。すると沢山の気づきがあります。例えば、沢山ゴミを入れてもらっているゴミ箱、あまりゴミを入れてもらえなかったゴミ箱、分別されているゴミ箱、みんなまとまっているゴミ箱。そういったものを自分たちの取組みを評価して、次の年度の取組みに活かしていく。企業でいうところのPDCAを子どもたちで回していくというような活動をしてきました。

現在は、新型コロナウイルス感染症の影響によりここ何年かはできていないのですが、以前からこのような取組みをしています。

もう一つは、太東中学校で行ったジェームス・ダイソン財団と提携した取組みです。これは中学生が久喜駅を利用する高齢者の課題を自分たちで発見していきます。その発見してきた課題をプログラミングや3Dプリンターを駆使して問題を解決するモデルを作ってプレゼンテーションをするという学習です。こちらについては動画がございますので、ご覧いただきたいと思います。

#### [動画視聴]

こういった、社会と繋がる教科横断的なプロジェクト型学習を計画することは、なかなか簡単ではありません。

そこで、教育委員会がコーディネーターとなり、企業と学校を結び付けて、企業と一緒に研究する形で、現在も、学習モデルの作成に取り組んでいます。

モデル作成には、栗橋西小学校もそうだったように、研究委嘱校制度を活用しています。

久喜小学校・小林小学校には、カリキュラム・マネジメントによるSDGs実現に向けた学びのSTEAM化を中核とする研究を、栗橋南小学校には、SDGsに向けた人権教育の在り方を研究していただいているところです。

このようにして、市内全小・中学校で、SDGs実現のためのESDに取り組んでまいりました。

始めに申しあげました、国が掲げるアクションプランにおける「教育のデジタル化・リモート化を進めること」と「持続可能な開発のための教育（ESD）を推進すること」、どちらにおいても、久喜市は先進的な成果を上げていると言えるかと思います。

それでは次に、これまでの取組みを踏まえ、今後の展望について、報告してまいります。

持続可能な社会の創り手として、変化を前向きにとらえ、未知の問題に主体的に向き合い、多様な他者と協働して、創造的に問題を解決していく力は、「汎用的な能力」と呼ばれています。この汎用的な能力は、いずれか一つの教科だけで育むことはできません。学校の教育課程全体を通して育むよう計画する必要があります。

このような「目的をもって社会とつながる教科横断的な学習を計画すること」をカリキュラム・マネジメントと呼んでおりまして、現行の学習指導要領においては、最も重要なキーワードの一つとして挙げられております。

「GIGAスクール構想」においても、掲げられた目指すべき次世代の学校・教育現場の姿として、このような5点が挙げられております。

川島指導課主  
幹

1つ目、2つ目のオンライン教育や個別最適な学びについても久喜市は先進的な取組みを進めておりますが、3つ目のプロジェクト型学習が、SDGs実現のためのESDに関わって重要な柱となります。

サブタイトルに「文理分断の脱却とPBLによるSTEAM教育の実現」とありますが、文理分断の脱却とは、つまり教科の枠にとられない学習が必要です、ということPBL（プロブレム ベースド ラーニング）によるSTEAM教育の実現とは、科学技術を活用した問題解決的なプロジェクト型学習が必要です、ということです。

このプロジェクト型の学習は、「久喜市版未来の教室」構想で実現するコンセプトの3つ目に「STEAM化された学び」として取り上げております。

「STEAM化された学び」とは、一人ひとりの「ワクワク」する気持ちを核に、「創る」ために「知る」、文理融合の学びのことで、つまり、子どもたちにとってのワクワクする目的（社会とつながるSDGs）が先にあり、それを実現するために、必要な知識を獲得し、友達と協働してトライ&エラーを繰り返しながら、目的達成を目指していくプロジェクト型の学習のことで。

この「STEAM化された学び」こそが、持続可能な社会の創り手を育てるESDの「中核」となります。

この充実に向け、今年度も様々な企業等と連携した取組みを実施しております。

例えば経済産業省、ボストン・コンサルティング・グループと連携した「STEAMライブラリ」を活用した授業、理想科学工業と連携した「印刷技術を活用したSDGs実現を目指したSTEAM単元の開発」、アマゾンと連携した社会とつながるプログラミング学習、アイカ工業と連携した「学習機の天板張替えプロジェクト」など、教育委員会がコーディネーターとなり、学校と企業とを結び付けています。

昨年度、清久小学校で連携したGoogleとは、今年度はパートナー自治体として連携しております。

このように、子どもたち自身がSDGs実現の主体者となるような、教科横断的なプロジェクト型学習（STEAM化された学び）を企業や大学等と連携して推進しております。

SDGs実現のためのESDの中核となる「社会につながる教科横断的なプロジェクト型学習（STEAM化された学び）」を充実していくために、今後取り組むべきこととして、現在考えていることを2つ話題に挙げさせていただきます。

1つ目は、STEAM教育用教材の充実です。

2つ目は、協働的な学びを加速させる環境づくりです。

1つ目、STEAM教育用教材の充実についてですが、STEAM化された学びを実施するには、最先端の科学技術を活用することが有効です。

SDGsアクションプランにおける「科学技術イノベーションを加速化」にも関連し、SDGsにおける日本の役割を踏まえれば、日本型ESDにおいては、最先端の科学技術を活用したプロジェクト型学習を実施するべきであると考えています。

そのために、例えば、教育委員会内に必要な教材を格納したラボを設置するプランを考えています。

川島指導課主幹

今後必要となる教材は、プログラミングロボット教材、ドローン教材、3Dプリンター教材などです。本来、教材は、それぞれの学校に配備されるものですが、これらの教材を学校ごとに配備しようとする、大きな経費がかかります。そこで、教育委員会に設置したラボに、2～3校分の教材を整備し、必要な時期に、必要な学校に貸し出す、といった運用をすることで、できるだけ少ない経費で、学校が最先端の科学技術を活用したSTEAM学習に取り組むことができるようにしてはどうかと考えております。

2つ目、協働的な学びを加速させる環境づくりについてですが、これは、モデル環境を作り、検証する方策を取ってはどうかと考えております。

現在の教室環境は、児童生徒が教室の前方に立った教師のほうを向き、黒板を書き写しながら学習するスタイルに基づいた設計がなされています。SDGs実現のためのESDにおいては、学びの主体者は児童生徒自身であり、主体者である児童生徒同士が協働して学ぶのに適した環境が必要です。

デスクワークが中心の業務なのに工場の中で働いたり、部品加工が中心の業務なのに、ビジネスビルの中で働くのは、非効率的ですよ。それと同じで、これからの学びは、児童生徒同士の協働による学びが中心になる必要がある、環境もそれに適したものにする必要があると考えています。

これを実現してくために前述の研究委嘱校制度を活用し、モデル校にて「協働的な学びの在り方」に関する研究を行い、令和5年度以降、その研究を市内の他校と共有し、市内全校の教室環境の改善に取り組んでいく、といったプランを考えております。

まとめになります。

現在、久喜市の教育の質の高さは全国的にも認知されるようになってまいりました。今後さらに「子どもを育てるなら久喜市で、教育するなら久喜の学校で」と思っただけのような久喜市の教育を行っていくためにも、「SDGs実現を目指したSTEAM化された学び」を充実していくべきであると考えております。

教育は、SDGsすべてに関わる根幹となる部分です。

久喜市の小・中学校では、すべての子どもに、目標4「質の高い教育をみんなに」を提供し、SDGs実現の主体者となる「持続可能な社会の創り手」を育む教育を推進してまいります。

指導課からの報告は以上でございます。

梅田市長

ただ今、担当課から学校教育におけるSDGsの取組みについて説明がありました。

これらの取組み内容について、意見交換をさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

山中委員お願いいたします。

山中委員

大変丁寧なご説明ありがとうございました。

お伺いしたいのは、令和3年度の取組みの中でコロナ禍においてどのように企業と連携を図っていったのか、お聞きしたいのと、現状すべての学校で企業と連携をして取り組んでいるのか、今の段階で何校やっているのか実績を教えてくださいたいと思います。

梅田市長

それでは、川島主幹お願いいたします。

川島指導課主幹

まず1点目、企業との連携をどのように進めているのかについて、今年度につきましても沢山の企業と連携をして取組みを進めています。例えば理想科学工業については、印刷技術を持った会社ですけれども、子どもたちが自分だけのエコバックを作るという活動をしています。家庭科の時間に手作りした手提げ袋に理想科学工業のプリンターを使って自分が作ったデザインを出力していくという活動です。これについても、オンラインで企業と学校とで打ち合わせを重ね、実際には企業の方に学校にお越しただいて実施をしております。このような形で他の企業とも打ち合わせはオンライン、サポートは実際に学校に来ていただいております。

2点目、全校でどのくらいまで進んでいるのかについてです。

先ほど、ステップ5まで示させていただきましたが、ステップ3までは既に今年度の教育計画に位置づけております。ステップ4でESDカレンダーを作成したり、計画の体系化を進めたりしていくのですが、これについてはまだ学校によってまちまちでございます。

教育計画を体系化していくことについて、教育課程全体を見渡す必要があるため、時間がかかります。そのため、できた学校から随時進めている状況です。

山中委員

ありがとうございます。

今後の目標としては、令和4年度はすべての学校で取り組めるように進めていきたいということで理解してよろしいでしょうか。

川島指導課主幹

このSDGs実現のためのESDについては、体系的でなければ今年度も全ての学校で取組んでいると認知しています。より充実させるのは来年度以降も継続して充実させていきたいと考えています。

山中委員

ありがとうございます。

最後、非常に興味深い、ラボを建設という形を考えているということですが、実際3Dプリンター等の高額なものを用意していくというところで、現段階で予算措置等して準備していると思いますが、例えばそのような教材・機材を3校分用意、常時ストックしておくということで、その場所はどこに作る予定で考えているとか、もし計画等あれば教えてください。

川島指導課主幹

まだ予算については検討中でございます。実際は設置するものにつきましては、ラボと言いましても実際に研究する場所はありません。オンライン上で十分です。教材を格納するのは驚宮総合支所の中に格納したいと考えております。

山中委員

ありがとうございます。

梅田市長

それではどうでしょうか。  
諸橋委員からどうぞ。

諸橋教育長職務代理者

はい。

先ほどの久喜市の取組みが先行的に行われていることが知れて、かなり先生方も学校も頑張っているんだなと思いました。

情報発信というのは効果があるようで、資料のグラフにもかなりの認知度があると出ているようですがSDGsの取組みに参加しているということになるとやや数字が下がってくるのかなと思いますが、実際、認知はしていても行動に移すということは結構難しいことだと思うのですが、各学校どのような感じで、具体的に取組んでいらっしゃるのか、ちょっとお伺いしたいです。

川島指導課主幹

各学校での取組みについては、積極的に広報している学校と、まだあまり広報が進んでいない学校がございます。保護者への周知につきましては、やはり一番は学校にお越しいただいた際や授業公開の際と一緒に体験していただくことが効果的であると考えています。ただ、まだ現状なかなか学校にお越しいただく機会が少なく、周知については十分に進んでいないという現状がございます。

諸橋教育長職務代理者

実際に学校と連携している、例えばコミュニティスクールとかも稼働しているかと思うのですが、そういった方々の共通認識として、お知らせもされてるのでしょうか。

川羽田参事

これは私の方から回答させていただきます。

学校関係ということで、学校運営協議会、それから保護者の皆様については、啓発を行っているところでございますけれども、まだ十分とは言いがたいところもあるかと思います。今後も、学校だより、ホームページで情報発信をするとともに、コロナ禍が落ち着きましたら、できるだけ子どもたちが取り組んでいるところを学校にご覧いただくような機会とかも作るなどして、保護者や地域の方、運営協議会の方にもご理解いただけるよう学校から働きかけて参りたいと考えております。

梅田市長

では、小野田委員どうでしょうか。

小野田委員

大変分かりやすい説明、ありがとうございました。

SDGs実現に向けてESDを先行することについて、いろいろやっていたことが分かりました。

私は最初、ESDとこのSDGsがよく分かっていない。やはり保護者としてはESDとSDGsを結び付けることによりかなり大変なのかなと思うのですが、そこのところは先ほど、これから一緒におっしゃっていたのですが、そこのところは先ほど、これから一緒におっしゃっていたのですが、もっと効率よく皆さんにちゃんと分かっていただけるにはどんなふうにしたらいいのかと思っていらっしゃいますか。

川島指導課主幹

おっしゃる通りこのアルファベットで並んでいる言葉が多くなってきており、このあたりが大変分かりにくくなっているのかなと思っております。

まず、SDGsについてはサステナブル・デベロップメント・ゴールズということで目標そのものを指します。ESDについては、エデュケーション・フォー・サステナブル・デベロップメントの略で、持続可能な開発のための教育、SDGsを実現するための教育のことをESDと言います。

|            |  |
|------------|--|
| 川島指導課主幹    | <p>これらについては、1番はこれからの学校教育の教育活動はこのSDGs実現のためのESD。先ほど話題に挙げました、学びのSTEAM化、これがおそらく教育活動の中核となってまいります。ですから、様々な教育活動を公開していく中で、このSDGsとの関連は否が応でも目に入ってくるようになるかと考えております。</p> <p>ただ、もちろんだから何もしないという訳でなくて、これらの活動がSDGsと結びついているのだということも積極的に周知していく必要があるのかなと思います。これらの取り組みについては、やはり社会全体で取り組むものであるというふうに考えておりますので、その効果を波及する一端を学校が担えるのかなと捉えております。</p>   |
| 小野田委員      | <p>ありがとうございました。</p>  |
| 梅田市長       | <p>はい、それでは一通りご意見いただいたところですが、何か特に付け加えるようなことはありますか。</p>  |
| 諸橋教育長職務代理者 | <p>はい。</p> <p>先ほどの教育環境を整えるというところで、教室のいつものスタイルからまた一步進めた内容に変えられるという話だったのですが、結局それはアクティブラーニングとか、何年も前からそういった話が進んでいて、こういったいろいろ新しいことが入ってくると前のものなどがだんだん薄れてしまうのですが、アクティブラーニングにも繋がるものと考えてよろしいのでしょうか。</p>   |
| 川羽田参事      | <p>こちらにつきましては、アクティブラーニングと重なるところもございます。</p> <p>既存の学びの中で有益なものは、もちろんそれも大切にしつつ、STEAM化された新しい学びというものを取り入れながら、進めて参りたいと考えております。</p>  |
| 梅田市長       | <p>はい、山中委員どうぞ。</p>   |
| 山中委員       | <p>ちょっとずれていたら申し訳ないのですがけれども、教育のデジタル化というところで、市内小・中学校でリモートをしており素晴らしいと思う一方で、今使用しているソフトウェアのところで急遽アップデートが入った場合とかの対応で、昨日使っていたプログラムが急遽アップデートされた時に、いざ発表しようかという時にアップデートしていなくて起動しないというそういうようなトラブル等があると時々聞くのですが、今後、アップデートするタイミング、どうしても無償で使っているソフトウェアのため、こちらの都合ではなく、相手サイドの都合でアップデートが行われていくと思いますが、これは逆にアップデートしない方法でロックをかけておいて、基本的には全校一斉にアップデートを行わせるとか、何か取組みを考えていれば今後、アップデートに対する対応とかはどのように考えているのか、お教え願えればと思います。</p> |
| 川島指導課主幹    | <p>現在使用しているICT環境のアップデートについては、これはもうあるものだという前提で考える必要があると考えています。なぜならば、アップデートは事前に告知されないことも沢山ございます。ただし、何</p>  |

|            |   |
|------------|---|
| 川島指導課主幹    | <p>かがまるまる使えなくなるという訳ではなくて、アップデートによって小さな仕様変更があるという前提で考えていく必要があると考えています。例えば、今使っているグーグルクロームは立ち上げた時に自動で更新がかかるようになっていました。ソフトウェアによっては、アップデートが始まるとしばらく何時間も使えなくなるというアプリケーションもありますが、そういうものは久喜市では入れておりません。久喜市はアップデートが始まってからわずか数秒で完結するようなものでございます。例えばクラスルームのテレビ会議システムが前は上にあったのだけれども、今は脇に出るようになっていました。そういったことは柔軟に対応できるような、そういう前提で使うというのがいいのかなと思っています。</p>  |
| 山中委員       | <p>はい、ありがとうございます。<br/>その辺りは是非とも学校単位で徹底していただければと思いますし、数時間かかるアップデートを行うようなソフトウェアがあるのであれば、そこら辺は柔軟な対応をしていただければなと思っています。</p>  |
| 梅田市長       | <p>他にいかがですか。<br/>はい、どうぞ。</p>  |
| 諸橋教育長職務代理者 | <p>先ほどの動画の中で太東中学校の教科横断的なプロジェクト型学習で駅を便利にするため、いろいろなアイデアが出てきたと思うのですが、あれは、実際に実用化に向けて動いていたりするのですか。</p>   |
| 川島指導課主幹    | <p>あれは、実用化には動いておりません。あくまでモデルとしてこういったアイデアはどうでしょうかというプレゼンテーションまでの学習となっております。</p>  |
| 諸橋教育長職務代理者 | <p>そうすると企業の方では、周りを少し参考にする程度で終わってしまっているのでしょうかね。<br/>何か子どもたちのモチベーションが上がるような、そういった動きに繋がるといいなと思っています。</p>   |
| 川島指導課主幹    | <p>あの時のプログラムについては、エンジニアの考え方を追体験するというところに目的がございましたので、実際にその課題解決まで繋げようという前提で動いていたプログラムではありませんでした。<br/>でも、おっしゃる通り、実際の社会で使ってもらえると子どもたちのモチベーションはぐんと上がります。<br/>先ほどの久喜小学校の例でお見せいたしましたような、実際にお祭りにゴミ箱を設置する、ここまできるととても素晴らしい活動だと思います。<br/>そういった活動を実際に組んでいくのは、かなり難しいです。<br/>だからこそ、企業と連携して、実際に行えるところまでを想定していきたいなと考えております。<br/>例えばですが、今取り組んでいる先ほどの理想科学とのコラボレーションではマイエコバックが最後に出てきます。<br/>アイカ工業との連携については、教室の机の天板を自分たちで張替えます。1年間使ったら穴が開いてきますし、汚れてしまったりする、それを次の学年に渡す時に、自分たちで綺麗にして、抗菌の天板を付け</p> |

|         |   |
|---------|---|
| 川島指導課主幹 | <p>て、そして再利用できるようにして、次の学年に引き渡すというような活動をしております。</p> <p>このようなものは実際にアクションまで繋がるので、より子どもたちにとって魅力的な課題になるのかなと思っております。</p>   |
| 梅田市長    | <p>それでは、小野田委員どうぞ。</p>   |
| 小野田委員   | <p>最後のアクションまで行くということですが、アイカ工業なり理想科学工業との取組みは何校ぐらいやっているのですか。</p>  |
| 川島指導課主幹 | <p>理想科学工業については、10校～11校ぐらいです。アイカ工業については、既に始まっているのが1校。この後、募集をかけて他にもやりたい学校があれば、追加で応募する予定です。</p>  |
| 山中委員    | <p>例えばアイカ工業の天板のメラミンの材料を支給していただくと思うのですが、そこら辺の予算というのは基本的にはアイカ工業が協賛していただけるのか、それとも教育委員会で負担をしているのか教えてください。</p>   |
| 川島指導課主幹 | <p>おっしゃる通りで、企業との共同研究ですので、資材は企業に持っていただいております。したがって、市としてはゼロ予算の事業になります。</p>  |
| 山中委員    | <p>はい、ありがとうございます。</p> <p>アイカ工業は非常にいい材料を使っているのですから、これで天板を全部張替えていただければ予算も減るのかなと思います。</p>  |
| 梅田市長    | <p>他になれば私の方から少し、ご説明の中で今後、栗橋西小学校がユネスコスクールに認定される見込みということで、ユネスコスクールになると何かメリットというか、特典みたいのがあるのですか。</p>   |
| 川島指導課主幹 | <p>ユネスコスクールに認定されますと、そういった教育を確かに実施している学校ですよという認証が得られます。ということと併せて、世界各国のユネスコスクールとも連携が図れるようになります。</p> <p>別の国ではこんなことに取り組んでいるとか、国内でも別の学校ではこんなことにも取り組んでいるとか、そういったことをシェアする中で更に一歩進んだ取組みができるようになる、というところがメリットになると考えております。</p> |
| 梅田市長    | <p>加盟の基準はかなり厳しいものですか。</p>   |
| 川島指導課主幹 | <p>かなり厳しいです。</p> <p>実際に審査員が学校に来て、その教育活動の様子を視察して評価して審査されます。栗橋西小学校の方では既にその審査をパスしておりますが、ただ、ユネスコスクールの仕組み自体が今変わろうとしています。その関係でまだはっきりとした認証がおりてきていないという現状です。</p>  |

梅田市長 是非これが認定されたら、子どもたちにとってもすごく自慢になるようなことだと思うので、ぜひ実現できるようにお願いしたいなというふうに思います。

様々な企業連携のアイデアをご披露いただいたのですけれども、これから、小・中学校を統廃合していく中で、鷺宮地区で義務教育学校を市民の皆様にご提案して、何とか推進していきたいと思ってるのですけれども、小学校や中学校だけの取組みではなくて、小中一貫校だからこそこできるような、SDGsの取組みみたいな何かアイデアはありませんかね。

川島指導課主幹 小中一貫校となりますと、またできる可能性が非常に広がるなと思っております。

SDGsの取組みは単年度で完結するものでなくて、主体者となるために継続して取り組んでいく、その資質能力を育むことが重要であるというふうに考えております。

ですから、単年度で完結する学習ではなくて、小学校から中学校へ、もしくは中学校段階の取組みを小学校段階の子どもたちとシェアしていくような活動ができるのではないかと思います。

これは大変、面白いことだなと聞きながら思ったところでございます。

梅田市長 関係学校の子どもたちや地域の方々が、義務教育学校になるとこんなメリットもあるのだなと実感できるような、何かプログラムや企画ができればより理解も深まるというふうに思いましたので、検討を進めてもらいたいと思います。

教育長から何かありますか。

柿沼教育長 大変貴重なご意見を沢山いただき、ありがとうございます。

持続可能な社会、この地球を作っていくというのは子どもたちですのので、この子どもたちへ、ESDをしっかりと教育していきたいというふうに思っております。学校だけで完結するものではありませんので、家庭や地域、市を挙げてこの取組みを更に推進できれば、子どもたちにとっても、学習の励みになると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

梅田市長 はい、ありがとうございます。

それでは、だいたい皆様からのご意見などが調整されたかと思ひますので、以上とさせていただきます。

#### 4 協議・調整事項（2）その他

梅田市長 協議・調整事項（2）その他であります。次回以降もテーマに基づいて意見交換を考えておりますが、皆様から、これはというテーマがもしございましたら発言をいただきたいと思ひます。

いかがでしょうか。

もし特にとこののがなければ、事務局案がありましたら、事務局からお話いただきたいと思ひます。

石川係長

それでは、事務局から2点テーマを提案させていただきたいと思えます。

1点目が、「第2次久喜市総合振興計画における教育分野に関すること」でございます。市では現在、令和5年度を始期とする「第2次久喜市総合振興計画」の策定に取り組んでおります。その中から教育分野に関する内容についてご協議いただければと思えます。また併せまして、教育大綱につきましても議論・意見交換していただければと思えますので、2点目として「教育大綱について」ということで提案させていただきたいと思えます。

よろしくお願ひいたします。

梅田市長

ただいま事務局から、「第2次久喜市総合振興計画における教育分野に関すること」そして、「教育大綱について」をテーマで提案をいただきましたけれども、このような内容で皆様よろしいでしょうか。

[「はい。」という声あり]

梅田市長

それでは以上の様々なやりとりをさせていただいた以外に、皆様から最後に何かございますか。

[「なし。」という声あり]

梅田市長

それでは、今回の会議は、これで閉じさせていただきたいと思えます。

以上で本日予定した協議・調整が終了いたしました。

ご協力ありがとうございました。

これをもちまして、議長の任を解かせていただきます。

## 5 閉会

関根参事

ありがとうございました。

それでは事務局から今後のスケジュールについてご説明させていただきます。

今年度につきましては、今回の会議をもちまして最後という形になります。また、児童生徒に関する緊急な要件がありましたら、その時はまたご案内させていただきますが、今年度は最後という形で考えております。来年度につきましても、2回を予定しております。1回目は7月頃、2回目は11月頃ということで予定しています。また時期が近くなりましたら、ご案内をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

事務局からは以上となります。

それでは、以上をもちまして令和3年度第2回久喜市総合教育会議を終了とさせていただきます。

本日は大変お疲れ様でございました。

会議のてん末・概要に相違ないことを証明するためにここに署名する。

令和3年11月15日

梅田 修一

諸橋 美津子